

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

平成 30 年度

事業報告書及び決算書

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日



EXPO'90
FOUNDATION

目次

事業報告書

I. 事業	
1. 顕彰事業	9
(1) コスモス国際賞	
(2) BIE コスモス賞	
(3) 全国花のまちづくりコンクール事業	
2. 助成・協働事業	12
(1) 調査研究、行催事等助成事業	
(2) 花とみどりの復興活動支援助成事業	
(3) 地域協働事業	
3. 普及啓発事業及び国際交流事業	15
(1) 次世代育成事業	
(2) 花育推進事業	
(3) 都市緑化推進運動等への協力事業	
(4) 普及啓発事業	
(5) 国際交流事業	
4. 調査研究・資料収集事業	20
生物多様性等に関する調査	
II. 庶務・管理	
1. 理事会・評議員会等	25
2. 内閣府届出及び情報公開	26
3. その他	26

決算書

III. 財務諸表	
1. 貸借対照表	29
2. 正味財産増減計算書	31
3. 正味財産増減計算書内訳表	34
4. 財務諸表に対する注記	37
5. 附属明細書	41
6. 財産目録	42
IV. 監査報告書	47

平成 30 年度

I. 事 業

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

はじめに

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会（以下「協会」という。）は、国際花と緑の博覧会（以下「花の万博」という。）の「自然と人間との共生」という理念を継承し発展させることを目的に、花の万博記念基金を活用し、年次事業計画書に沿って各種事業を行っている。

平成 30 年度は、平成 29 年度に策定した中長期計画に基づき、事業の効率化のための選択と集中や事業間連携を進めた。また、協会の中心的事業である「コスモス国際賞」関連事業を行った他、助成・協働事業、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業を滞りなく行った。

1. 顕彰事業

(1) コスモス国際賞

花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」（以下「コスモス賞」という。）の 2018 年（第 26 回）受賞者の選考及び授賞式等を次のとおり実施した。

また、2019 年（第 27 回）の受賞候補者の推薦を国内外の推薦人に依頼するため、推薦状を発送した。

ア. 受賞者の選考等

コスモス賞委員会（以下「賞委員会」という。）及びコスモス賞選考専門委員会（以下「選考委員会」という。）を設置し、次の選考作業を行った。

(ア) 2018 年（第 26 回）受賞者の選考等

- ・平成 30 年 5 月 18 日及び 6 月 1 日に第 1 回、第 2 回選考委員会が開催され、2018 年受賞者選考対象 139 件の推薦に基づき、慎重な選考作業が実施された。
- ・平成 30 年 6 月 29 日に第 3 回選考委員会及び第 2 回賞委員会が開催され、2018 年受賞候補者にオギュスタン・ベルク博士(フランス国立社会科学高等研究院教授)が選定された。
- ・選考の経緯及び結果は、平成 30 年 7 月 24 日開催の第 98 回理事会に推挙され、受賞者として決定した。また、同日午後、国内外の報道機関に対して記者発表を実施した。

(イ) 2019 年（第 27 回）受賞者の選考準備等

- ・平成 31 年 2 月 4 日に第 1 回賞委員会が開催され、2019 年（第 27 回）受賞者の受賞者選考に対して選考方針及び今後の日程等について審議された。
- ・国内外約 2,000 名の推薦人に対し、受賞候補者の推薦依頼を行った。

イ. 2018年(第26回)コスモス賞授賞式及び晩餐会の開催

国内外からの賓客及び招待者約370名の参列のもと、授賞式を開催するとともに、オギュスタン・ベルク博士を囲み、賞委員会・協会関係者による晩餐会を行った。

(ア) 授賞式

日 時：平成30年11月14日(月)午後3時～5時

場 所：いずみホール(大阪市中央区)

出席者：約370名

(イ) 受賞記念晩餐会

日 時：平成30年11月14日(月)午後5時30分～7時

場 所：ホテルニューオータニ大阪(大阪市中央区)

出席者：28名

ウ. コスモス国際賞受賞記念講演会

2018年受賞者オギュスタン・ベルク博士による講演会を平成30年10月21日(日)に京都市左京区の京都大学・シンポジウムホールで、11月19日(月)に東京大学安田講堂で、12月2日(日)に仙台国際ホテルで開催した。(詳細別表1のとおり)

(別表1)

		京都	東京	仙台
日時		平成30年10月21日(日) 午前10時～午後5時15分	平成30年11月19日(月) 午後4時～6時	平成30年12月2日(日) 午後1時30分～4時30分
場所		京都大学・シンポジウムホール (京都市左京区)	東京大学安田講堂 (東京都文京区)	仙台国際ホテル (仙台市青葉区)
講演 次第 等	テーマ	日本列島の自然観	持続可能性の風土的基盤	持続可能性の風土的基盤
	講師	2018年コスモス国際賞受賞者 オギュスタン・ベルク博士(フランス国立社会科学高等研究院教授)		

講演 次第 等	講師 等	講演 秋道智彌博士 (コスモス国際賞委員会委員・山梨県立富士山世界遺産センター所長)	受賞者紹介 秋道智彌博士 (コスモス国際賞委員会委員・山梨県立富士山世界遺産センター所長)	受賞者紹介 野家啓一博士 (コスモス国際賞選考専門委員会委員・東北大学総長特命教授)
		対談 オギュスタン・ベルク博士 山極壽一博士 (京都大学総長)		対談 オギュスタン・ベルク博士 赤坂憲雄博士 (学習院大学教授)
		など		佐倉統博士 (東京大学教授)
参加者		約 100 名	約 380 名	約 150 名
共催		総合地球環境学研究所、 KYOTO 地球環境の殿堂	東京都教育委員会	総合地球環境学研究所、東 北大学、宮城大学
後援		京都府、京都市、京都新聞 社	農林水産省、国土交通省、 文部科学省、環境省、フラ ンス大使館	河北新報社

(2) BIE コスモス賞

協会の存在及びコスモス賞の国際的な PR のため、平成 19 年度より BIE(博覧会国際事務局(本部パリ))と開催国の万博協会が行う「BIE コスモス賞」については、平成 30 年度は、過去 5 回の効果検証に着手し、今後のあり方について検討を進めた。

(3) 全国花のまちづくりコンクール事業

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画し、第 28 回(2018 年)花のまちづくりコンクールを実施した。

応募数：1,667 件

入賞：農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞 各 2 点をはじめ 25 点

表彰式開催日：平成 30 年 10 月 25 日(木)

場 所：東海大学校友会館(東京都千代田区)

主 催：花のまちづくりコンクール推進協議会(当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、(一財)日本花普及センター)

2. 助成・協働事業

(1) 調査研究、行催事等助成事業

花の万博の理念の継承、発展又は普及啓発に資する調査研究、活動・行催事等を支援する助成事業を次のとおり実施した。

ア. 平成 30 年度は、別表 2 の 33 団体 (採択 34 団体のうち 1 団体辞退) に対し、10,246 千円の助成を行った。

(別表 2)

	助成団体名	事業名
調査研究	洞爺湖生物多様性協議会	洞爺湖ウチダザリガニ捕獲調査事業
	NPO 大阪公立大学共同出版会	バーチャル常世文庫の創設と関係資料のアーカイブ化
	神奈川トンボ調査・保全ネットワーク	RD I II 類のトンボ及び生息地の保護・保全と分布調査
	NPO おおいた環境保全フォーラム	稀少種カワツルモを指標とし瀧湖・龍神池の再生事業
	横浜国立大学・天然林の多様性研究グループ	樹木種の多様性と機能性を支えるメカニズムの解明
	NPO グラウンドワーク三島	荒れ果てた里山を救え・大場桜山再生プロジェクト
	モンゴル森林再生促進研究会	「倒木遮蔽更新」仮説を応用した再生促進技術の開発
	コウノトリ湿地ネット	市民参画型によるコウノトリ飛来状況調査
	奈良学園高等学校 S S 研究チーム	地下探査の研究成果を用いたラン科サギソウ群落の保全
活動・行催事	中生代植物研究会	絶滅危惧の中生代古植物研究者の育成アウトリーチ活動
	竹の國	竹と茶
	NPO 四国自然史科学研究センター	四国における特定外来生物ソウシチョウの防除
	公益財団法人南方熊楠記念館	番所山(南方熊楠の森)の昆虫・粘菌調べ隊
	つくし野ビオトーププロジェクト	地域で親子が生物多様性を体系的に学ぶ体験的環境学習
	錦郡自然環境プロジェクト	「生き物大好き」わくわくドキドキ、錦郡ビオトープ
	NPO 山の自然学クラブ	宮城県気仙沼市の地域在来植物の保全・育成・植栽活動
	古屋の記憶継承プロジェクト倶楽部	古屋の記憶継承プロジェクト
	京都伝統文化の森推進協議会	京都伝統文化の森推進協議会 10 周年記念冊子の発行
	伊吹くらしのやくそう倶楽部	伊吹の薬草復活プロジェクト
	緑道ワークス	市民の手による、緑道『五感のみち』化プロジェクト
	NPO メリーポピンズの会	「花と緑でまちを元気に」の活動 (継続)

公益社団法人園芸文化協会	江戸の花プロジェクト・園芸文化を守ろうセミナー
NPO 樹木研究会こうべ	岡本地区花木名所の保全対策立案
福興浜団	菜の花迷路一般開放に向けた菜の花畑整備
公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク	都市部の住民へ森林保全の必要性を学ぶキョリ体験会
NPO 白神自然学校一ツ森校	白神山地世界遺産登録 25 周年を学ぶ学習事業
逢瀬さくらの里	新名所づくり「出逢いのさくら通り」事業
一般社団法人フラワーサイエティ	園芸雑誌要約集「花アブストラクト」の発行
福井南ロータリークラブ	足羽山公園緑地化
千葉大学 松戸・柏の葉地区 環境 ISO 学生委員会	花と緑による住民主体の復興活動の支援
NPO ハーブとスローフードのまちづくり	増加傾向の耕作放棄地を花と緑で潤う空間にする活動
梅ヶ久保自然愛護会	里山に自生する山野草の育成と保護、現場で輪を広げる
一般社団法人エコロジー・カフェ	八戸公園トンボの楽園調査プロジェクト

イ. 平成 31 年度実施分については、中長期計画に基づき「花とみどりの復興活動支援助成事業」を「助成事業」に統合し、3 部門による「花博自然環境助成事業」としてリスタートし、助成事業審査委員会を設け、応募のあった助成対象団体の審査・決定を行った。

(ア) 公募及び審査

公募期間：平成 30 年 8 月 1 日（水）～9 月 14 日（金）

復興活動支援については、10 月 31 日まで延長した。

応募数：69 件（調査研究 14 件、活動・行催事 34 件、復興活動支援 21 件）

審査期間：平成 30 年 10 月～平成 31 年 1 月

(イ) 助成対象団体の決定

助成事業審査委員会の結果は平成 31 年 2 月 1 日付けで理事長に答申され、平成 31 年度の助成対象 47 件（調査研究 12 件、活動・行催事 18 件、復興活動支援 17 件）を決定した。その後、第 99 回理事会（平成 31 年 3 月 20 日）に報告を行った。

(2) 花とみどりの復興活動支援助成事業

阪急電鉄株式会社からのご寄附を充当し、東日本大震災の被災 6 県（青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉）に、平成 30 年度より熊本地震被災 2 県（熊本県、大分県）を新たに対象地域として加え、花とみどりによる復興活動を行う団体へ助成支援を行った。

ア. 公募及び審査

公募期間：平成 30 年 4 月 10 日（火）～平成 30 年 5 月 22 日（火）

審査期間：平成 30 年 6 月

イ. 助成対象団体の決定

復興活動支援助成事業審査会を設け、申請内容を審査し、申請 26 団体の中から 17 団体（別表 3）（採択 18 団体のうち 1 団体辞退）に対し 4,664 千円の助成を行った。

（別表 3）

団体名	所在地	事業名
花と緑で旭を元気にするプロジェクト協議会	千葉県	3.11 継承する集い
浦浜・泊まちづくり委員会	岩手県	浦浜・泊地区浸水地域の緑化事業
ナチュラルギフト	岩手県	花とみどりの元気ひろば
災害対策ボランティアネットワーク	千葉県	福島被災障がい者施設 花元気プロジェクト
NPO 勿来まちづくりサポートセンター	福島県	花が育む高校生と地域との交流支援事業
中島校区社会福祉協議会	熊本県	助け合いつながり合う中島 2018
NPO サンガ岩手	岩手県	復興の花壇に集おうプロジェクトⅣ
弓削校区健康まちづくり委員会	熊本県	まちあるき～お花を咲かせて元気になろう～
はなあそび	福島県	心の成長と癒しを目的とする復興支援活動
NPO スマイルシード	宮城県	「今を支え・未来を育てる」～野外循環コミュニティづくり～
坪井川遊水地の会	熊本県	坪井川遊水地復興桜並木プロジェクト
Noroshi 西原	熊本県	西原村みんなの花壇作り
熊本市立龍田小学校 PTA	熊本県	地域の竹林を活用した小学校花いっぱい運動
NPO パワーアップ支援室	岩手県	花・陽だまり・心の和みプロジェクト
フラワーパワースポット実行委員会	熊本県	空の玄関ましき～花と緑の復興プロジェクト
肥後朝顔涼花会	熊本県	肥後朝顔の栽培環境再整備と普及
砂子田園芸クラブ	福島県	花と緑の砂子田団地

（3）地域協働事業

地方公共団体・企業・ボランティア・住民等と協働し、次の事業を実施した。

ア. 歴史の道みどりの拠点づくり事業

街道を人間の生活と自然の接点と捉え、緑あふれる空間を創造することにより、「自然と人間との共生」という理念の継承発展につなげる本事業は、大阪府泉大津市での助松村境石造物群事業（紀州街道）1件を実施し、新たに1件の事業を採択した。

イ. 花と緑の交流広場「自然と人間との共生フェスタ in 三重」

三重県やその周辺で、自然保護や緑の創出などを行う市民団体や花博記念協会が過年度に助成した団体の発表の場を設け、情報の共有や協働のネットワークを促進し、共生の輪を広げることを目的に実施した。

日 時：平成31年3月2日（土）午後零時45分～午後7時30分

場 所：三重県総合博物館

参加団体：20団体

参加者：約110名

共 催：三重県総合博物館、鳥羽市立海の博物館

後 援：農林水産省、国土交通省中部地方整備局、環境省中部地方環境事務所、三重県、津市

その他：エクスカーショーン 平成31年3月3日（日） 参加者30名

浦村地区藻場保全活動組織、鳥羽市立海の博物館、磯部の御神田奉仕会の活動場所3箇所視察

3. 普及啓発事業及び国際交流事業

(1) 次世代育成事業

協会に関係する学者、知識人等を講師に招き、児童を対象に開催している平成30年度の本事業は、屋外での自然観察教室（フィールド型セミナー）、小学校講師派遣（講師派遣型セミナー）を引き続き実施した。

また、次世代育成とマスコミとの連携強化のため、毎日新聞大阪本社との共催による校庭・園庭における生態園づくりを実施した。

ア. 自然観察教室「コスモスセミナー 集まれ！生き物好きな子供たち」

開催日：平成30年8月11日（土）～13日（月）

場 所：兵庫県立奥猪名健康の郷（兵庫県川辺郡猪名川町）

講 師：谷 幸三（一般社団法人淡水生物研究所理事）

三橋 弘宗（兵庫県立人と自然の博物館主任研究員）

参加者：近畿圏の小学校4～6年生 29名

共 催：兵庫県立人と自然の博物館

イ. 小学校講師派遣（講師派遣型セミナー）

小学校への出張授業を 15 件（別表 4）実施した。

（別表 4）

	日	学校名・参加者	テーマ	講師
30 年	6月14日	泉大津市立浜小学校 5 年生 70 人	動物の命について	長瀬健二郎 元天王寺動物園園長
	6月20日	東大阪市立鴻池東小学 3 年生 82 人	植物のはたらき	渋谷俊夫 大阪府立大学准教授
	7月2日	香里ヌヴェール学院 3 年生 63 人	〃	〃
	7月9日	大阪市立加美東小学校 3 年生 54 人	昆虫の生態・川の環境	谷 幸三 (一社)淡水生物研究所理事
	7月12日	神戸市立多井畑小学校 3 年生 41 人	〃	〃
	7月13日	枚方市立高陵小学校 4、5、6 年生 68 人	〃	〃
	7月18日	大阪狭山市立第 7 小学校 5 年生 96 人	動物の命について	長瀬健二郎 元天王寺動物園園長
	8月30日	大阪市立菅原小学校 3 年生 104 人	昆虫の生態・川の環境	谷 幸三 (一社)淡水生物研究所理事
	9月5日	大阪市立西船場小学校 3 年生 95 人	〃	〃
	9月10日	堺市立家原寺小学校 3 年生 56 人	〃	〃
	9月21日	貝塚市立北小学校 3 年生 47 人	〃	〃
	10月1日	大阪市立瓜破西小学校 4 年生 50 人	〃	〃
	10月30日	大阪市立北中島小学校 5 年生 79 人	〃	〃
	12月13日	大阪市立長吉小学校 5 年生 92 人	動物の命について	長瀬健二郎 元天王寺動物園園長
31 年	2月5日	堺市立原山ひかり小学校 4 年生 76 名	まちの景観・歴史	増田 昇 大阪府立大学名誉教授

ウ. 校庭・園庭における生態園づくり

毎日新聞社と共催し、生態園（ビオトープ）を 3 校（別表 5）に設置した。また、前年に設置した小・中学校においては、生物の観察の様子や記録は毎日新聞紙面や毎日新聞ホームページで紹介された。

(別表5)

実施校	所在地	実施内容
姫路市立山田小学校	兵庫県姫路市	山田町にある希少植物・生物を守り、育てて行こう！
姫路市立白鷺小中学校	兵庫県姫路市	白鷺バタフライガーデンを利用した環境教育と地域と協働した地域活性化
東大阪市立意岐部東小学校	大阪府東大阪市	人と自然生物が共に生活する学校づくり

エ. 鶴見緑地昆虫クエスト大作戦

幼稚園・保育園児とその保護者を対象とした「鶴見緑地昆虫クエスト大作戦」については、台風21号の被害のため、やむなく中止した。

(2) 花育推進事業

花や緑による情操教育を目的とした花育活動を推進する全国花育推進協議会に参画し、関係団体とともに講習会やセミナー等を実施した。

(3) 都市緑化推進運動等への協力事業

「春の都市緑化推進運動期間(4～6月)」および「都市緑化月間(10月)」における「都市緑化キャンペーン活動」等を支援するため、都市緑化推進運動協力会に協力した。

(4) 普及啓発事業

花の万博が開催された地元大阪において、理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し実施した。

ア. 大阪都市緑化フェア

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画、支援した。

開催日：平成30年9月23日(日)～9月24日(月・祝)

場 所：万博記念公園お祭り広場(大阪府吹田市)

来場者：約23,000名

主 催：当協会、大阪府、阪神造園建設業協同組合

イ. はならんまん

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に参画した。

開催日：平成30年9月29日(土)～30日(日)(30日は、台風の影響により中止)

場 所：花博記念公園鶴見緑地（大阪市鶴見区）

来場者：約 3,500 名

主 催：当協会、大阪市

ウ. みどりのまちづくり賞（大阪ランドスケープ賞）

緑によるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした第 8 回みどりのまちづくり賞に参画し、花博記念協会会長賞等を授与した。

応募数：34 件

入 賞：11 件

表彰式・講評会開催日：平成 30 年 10 月 31 日（水）

場 所：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）パフォーマンススペース（大阪市中央区）

来場者：約 100 名

主 催：当協会、大阪府、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部

エ. その他

（ア）広報・報道活動

- ・コスモス国際賞の最新受賞者情報を掲載したパンフレットを作成し、授賞式等で配付した。また、2018 年（第 26 回）受賞者の業績、コスモス国際賞の趣意、構成、授賞式及び記念講演等を取りまとめた報告書（変形 A4 判 84 頁）を作成（2,500 部）し、国内外の関係者に配付した。
- ・各事業の周知のため、各種チラシ、パンフレット、報告書等を作成し、配布した他、事業毎に東京・大阪の記者クラブに資料を提供し、マスコミキャラバンを実施した。
- ・各事業の理解促進・普及を図るためホームページのリニューアルを実施した。また、コスモス国際賞の受賞者のインタビュー映像を動画サイトで公開するなど、情報発信を行った。

（イ）情報等の提供、その他普及啓発

- ・理念の理解と促進を図ると共に、協会の蓄積情報を発信するため協会情報誌『KOSMOS』（変形 A5 判 24 頁 1,000 部）の 4 号、5 号を発刊し、関係者に配付した。
- ・今後開催が計画されている博覧会や各種イベント等の主催者に対し、博覧会や協会事業情報、写真等の提供を行った。

海外・国・地方自治体等－13 件、企業・個人－11 件

・各種行催事等に協賛・後援・会長賞の交付を行った。(別表 6)

(別表 6)

催事名 (開催時期)	開催場所	主催	名義
第 15 回 2018 周防町通り「はなまつり」(H30.5.1~5.31)	周防町通り (堺筋~御堂筋間) と大阪市立南小学校 (大阪市中央区)	ヨーロッパ村周防町通り商店会	後援
「大阪ばら祭 2018」(H30.5.11~5.13)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館 (大阪市鶴見区)	関西ばら会・鶴見緑地スマイル 5	後援 会長賞
平成 30 年度大阪府花の文化園幼児・小中学生花の絵画展 (H31.1.5~2.3)	大阪府立花の文化園 イベントホール (大阪府河内長野市)	大阪府、住友林業緑化・E-DESIGN 共同企業体	後援 会長賞
水都お ^{もり} おさか森林の市 2018 (H30.10.28)	近畿中国森林管理局・毛馬桜之宮公園周辺 (大阪市北区)	水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会	後援
第 22 回咲くやフォトコンテスト (H30.11.27~H31.1.20)	花博記念公園鶴見緑地内 咲くやこの花館 (大阪市鶴見区)	(一財)大阪スポーツみどり財団	協賛 会長賞
平成 30 年度「都市緑化月間」(H30.10.1~10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協賛
軽トラガーデンコンテスト (H30.9.22)	万博記念公園 (大阪府吹田市)	阪神造園建設業協同組合・(一社)日本造園組合連合会大阪府支部	会長賞
第 73 回日本おもと名品展 (H30.11.17~11.18)	上野グリーンクラブ (東京都台東区)	(公社)日本おもと協会	後援 会長賞
小品盆栽フェア第 27 回春雅展 (H31.3.29~3.31)	花博記念公園鶴見緑地内 ハナミズキホール (大阪市鶴見区)	(公社)全日本小品盆栽協会	後援 会長賞
2019 日本フラワー&ガーデンショー (H31.4.19~4.21)	パシフィコ横浜展示ホール B (神奈川県横浜市)	(公社)日本家庭園芸普及協会	協賛
いけばなインターナショナル大阪支部第 28 回フェスティバル (H31.4.28)	大阪国際交流センター (大阪市天王寺区)	いけばなインターナショナル大阪支部	後援

(5) 国際交流事業

ア. 高校生のための生き物調査体験ツアーin 台湾

日本の高校生を台湾に派遣し、専門家の指導のもと、現地の高校生と合同で生き物の観察、調査を体験させる事業を実施した。

開催日：平成 30 年 8 月 1 日（水）～8 月 7 日（火）6 泊 7 日

場 所：台湾 - 台北市立動物園および東眼山自然教育センター

参加者：日本人高校生 20 名、台湾人高校生 20 名

講 師：秋山 弘之（兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員）

太田 英利（ ” 研究部長）

山内 健生（ ” 主任研究員）

池田 忠広（ ” 主任研究員）

布野 隆之（ ” 研究員）

ほか台北市立動物園研究者 4 名

イ. 国際園芸博出展協力

中国・北京で 2019 年 4 月 29 日から同年 10 月 7 日の会期で開催の北京国際園芸博覧会（テーマ：緑の生活・より良い生活）の日本国出展に係る委員会に参加するなど、日本政府の出展準備作業に協力した。

4. 調査研究・資料収集事業

生物多様性等に関する調査

- ・東アジアと東南アジアの植物多様性の情報共有・問題解決に向けた議論を行い、植物多様性の重要性と必要性を広く発信することを目的として、国立科学博物館、日本植物園協会と共催で、「国際シンポジウム『東・東南アジアにおける植物多様性保全』」を開催した。開催にあたっては、平成 28 年度に作成した『日本固有植物に学ぶ自然のしくみと共生の知恵』を配布した。

開催日：平成 30 年 11 月 9 日（金）～11 日（日）

場 所：国立科学博物館（東京都・台東区）

参加者：約 240 名（3 日間の合計）

共 催：国立科学博物館、日本植物園協会

- ・大阪府高等学校生物教育研究会にて、「プラネタリーバウンダリー概念とこれからの生態系教育のあり方」について、講義を行うとともに関連小冊子の配布を行った。

開催日：平成 31 年 2 月 22 日（金）午後 3 時～5 時

場 所：ヴィアール大阪（大阪市中央区）

講 師：森本幸裕協会理事

参加者：大阪府下高等学校生物担当教員 約 30 名

平成 30 年度

Ⅱ. 庶務・管理

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

II. 庶務・管理

1. 理事会、評議員会等

(1) 第97回理事会 平成30年6月7日(木)

開催場所：経団連会館カンファレンス(東京都千代田区)

決議事項：平成29年度事業報告並びに収支決算について
定時評議員会の招集について

出席等：決議に必要な出席理事の数5名、出席8名、欠席0名、監事出席2名

(2) 第98回理事会 平成30年7月24日(火)

開催場所：ステーションカンファレンス東京(東京都千代田区)

決議事項：2018年(第26回)コスモス国際賞受賞者の決定について
特定資産の取崩しについて
平成30年度収支予算の補正について
評議員会の招集について

出席等：決議に必要な出席理事の数5名、出席8名、欠席0名、監事出席2名

(3) 第99回理事会 平成31年3月20日(水)

開催場所：経団連会館カンファレンス(東京都千代田区)

決議事項：平成31年度資産運用方針書について
平成31年度事業計画及び収支予算について
特定資産について
顧問、参与の選任について
コスモス国際賞委員会委員長及び委員の選任について

出席等：決議に必要な出席理事の数5名、出席6名、欠席2名、監事出席1名

(4) 第52回評議員会 平成30年6月25日(月)

開催場所：阪急グランドビル(大阪市北区)

決議事項：平成29年度事業報告及び収支決算書類の承認について

出席等：決議に必要な出席評議員の数7名、出席7名、欠席6名、監事出席2名、理事出席2名

(5) 第53回評議員会 平成30年8月29日(水)

開催方法：決議の省略の方法

決議事項：特定資産の取崩しについて

出席等：提案書に対し、評議員13名全員の書面による同意の意思表示を得た日をもって、評議員会の決議があったものとみなされた。

2. 内閣府届出及び情報公開

平成 30 年 6 月に開催した理事会、評議員会における平成 29 年度事業報告及び収支決算、平成 31 年 3 月に開催した理事会における平成 31 年度事業計画及び収支予算について、それぞれ、内閣府に届出を行った。

また、定款、名簿、財務諸表等を協会事務所に据え置いたほか、協会ホームページにも掲載し、情報公開に努めた。

3. その他

第三者委員会として資産運用管理委員会を引き続き開催し、資産運用の業務状況を調査・確認し、代表理事に対して報告を行った。

協会組織は、代表理事 2 名、業務執行理事 1 名の体制のもと、2 部 3 課制 12 名とした。

平成 30 年度

Ⅲ. 財 務 諸 表

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

1. 貸借対照表

平成31年3月31日 現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	103,455,369	118,901,461	△15,446,092
未収収益	76,588,360	75,743,584	844,776
流動資産合計	180,043,729	194,645,045	△14,601,316
2. 固定資産			
(1)基本財産			
基本財産定期預金	860,344,700	860,344,700	0
基本財産投資有価証券	29,655,300	29,655,300	0
基本財産合計	890,000,000	890,000,000	0
(2)特定資産			
記念基金	9,948,086,600	9,784,197,115	163,889,485
退職給付引当資産	44,429,800	41,100,400	3,329,400
国際園芸博覧会出展事業積立資産	10,000,000	10,000,000	0
特定資産合計	10,002,516,400	9,835,297,515	167,218,885
(3)その他固定資産			
投資有価証券	4,222,660	6,432,000	△2,209,340
什器備品	8	8	0
その他固定資産合計	4,222,668	6,432,008	△2,209,340
固定資産合計	10,896,739,068	10,731,729,523	165,009,545
資産合計	11,076,782,797	10,926,374,568	150,408,229
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	12,255,413	22,723,946	△10,468,533
預り金	1,417,155	1,360,929	56,226
賞与引当金	3,159,842	2,921,316	238,526
流動負債合計	16,832,410	27,006,191	△10,173,781
2. 固定負債			
退職給付引当金	44,429,800	41,100,400	3,329,400
固定負債合計	44,429,800	41,100,400	3,329,400
負債合計	61,262,210	68,106,591	△6,844,381
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	10,000,000,000	10,000,000,000	0
基本財産運用益	90,000,000	90,000,000	0
特定資産運用益	800,000,000	731,610,000	68,390,000
特定資産評価差額金等	△51,913,400	△147,412,885	95,499,485
指定正味財産合計	10,838,086,600	10,674,197,115	163,889,485
(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)	(890,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(9,948,086,600)	(9,784,197,115)	(163,889,485)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
2. 一般正味財産	177,433,987	184,070,862	△6,636,875
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	(0)
正味財産合計	11,015,520,587	10,858,267,977	157,252,610
負債及び正味財産合計	11,076,782,797	10,926,374,568	150,408,229

2. 正味財産増減計算書

平成30年4月1日 から 平成31年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	7,321,679	6,846,810	474,869
基本財産受取利息	7,321,679	6,846,810	474,869
特定資産運用益	237,510,430	237,852,457	△342,027
記念基金受取利息	237,488,392	237,830,419	△342,027
特定資産受取利息	22,038	22,038	0
受取寄付金	4,000,000	3,000,000	1,000,000
受取寄付金	4,000,000	3,000,000	1,000,000
雑収益	30,000	83,501	△53,501
雑収益	30,000	83,501	△53,501
経常収益計	248,862,109	247,782,768	1,079,341
(2) 経常費用			
事業費	190,047,900	188,502,680	1,545,220
役員報酬	8,316,000	8,305,500	10,500
給与手当	39,784,397	37,311,465	2,472,932
法定福利費	6,714,348	6,237,483	476,865
退職給付費用	1,855,142	1,144,691	710,451
賃金	21,000	0	21,000
職員厚生費	327,228	290,603	36,625
会議費	2,172,479	1,661,805	510,674
旅費交通費	6,289,511	8,413,768	△2,124,257
通信運搬費	2,927,418	2,731,749	195,669
広告費	0	888,233	△888,233
消耗什器備品費	203,478	0	203,478
消耗品費	1,539,275	1,826,086	△286,811
印刷製本費	2,137,416	3,144,690	△1,007,274
光熱水料費	2,177,245	2,460,979	△283,734
修繕費	96,012	138,348	△42,336
役務費	8,316	15,876	△7,560
委託費	22,222,789	28,080,952	△5,858,163
賃借料	4,436,811	4,735,986	△299,175
使用料	2,139,147	2,482,365	△343,218
保険料	202,972	202,972	0
諸謝金	6,039,880	5,962,219	77,661
租税公課	13,300	14,266	△966
支払負担金・会費	23,563,675	13,850,038	9,713,637
支払助成金	16,195,000	15,162,547	1,032,453
支払手数料	514,133	559,331	△45,198
顕彰賞金	40,000,000	42,689,200	△2,689,200

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
雑費	150,928	191,528	△40,600
管理費	65,451,084	67,820,584	△2,369,500
役員報酬	3,564,000	3,559,500	4,500
給与手当	31,042,358	29,931,606	1,110,752
法定福利費	5,914,752	5,663,420	251,332
退職給付費用	1,474,258	935,809	538,449
賃金	9,000	0	9,000
職員厚生費	260,044	237,574	22,470
会議費	931,063	712,202	218,861
旅費交通費	2,695,504	3,605,900	△910,396
通信運搬費	1,254,607	1,170,749	83,858
広告費	0	380,671	△380,671
消耗什器備品費	87,205	0	87,205
消耗品費	659,690	782,609	△122,919
印刷製本費	916,035	1,347,725	△431,690
光熱水料費	933,105	1,054,705	△121,600
修繕費	41,148	59,292	△18,144
役務費	3,564	6,804	△3,240
委託費	9,524,053	12,034,695	△2,510,642
賃借料	1,901,490	2,029,707	△128,217
使用料	916,778	1,063,870	△147,092
保険料	86,988	86,988	0
諸謝金	2,588,520	2,555,237	33,283
租税公課	5,700	6,114	△414
支払負担金・会費	356,196	273,610	82,586
支払手数料	220,343	239,713	△19,370
雑費	64,683	82,084	△17,401
経常費用計	255,498,984	256,323,264	△824,280
当期経常増減額	△6,636,875	△8,540,496	1,903,621
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△6,636,875	△8,540,496	1,903,621
一般正味財産期首残高	184,070,862	192,611,358	△8,540,496
一般正味財産期末残高	177,433,987	184,070,862	△6,636,875
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	4,000,000	3,000,000	1,000,000
受取寄付金	4,000,000	3,000,000	1,000,000
基本財産運用益	7,321,679	6,846,810	474,869
基本財産受取利息	7,321,679	6,846,810	474,869

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
特定資産運用益	363,524,632	246,861,061	116,663,571
記念基金受取利息	239,697,732	240,991,061	△1,293,329
記念基金投資有価証券償還益	123,826,900	5,870,000	117,956,900
特定資産評価損益等	40,062,585	△30,504,142	70,566,727
記念基金投資有価証券評価損益等	40,062,585	△30,504,142	70,566,727
一般正味財産への振替	△251,019,411	△250,837,871	△181,540
一般正味財産への振替	△251,019,411	△250,837,871	△181,540
当期指定正味財産増減額	163,889,485	△24,634,142	188,523,627
指定正味財産期首残高	10,674,197,115	10,698,831,257	△24,634,142
指定正味財産期末残高	10,838,086,600	10,674,197,115	163,889,485
Ⅲ 正味財産期末残高	11,015,520,587	10,858,267,977	157,252,610

3. 正味財産増減計算書内訳表

平成30年4月1日 から 平成31年3月31日 まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	2,196,503	5,125,176	7,321,679
基本財産受取利息	2,196,503	5,125,176	7,321,679
特定資産運用益	166,257,303	71,253,127	237,510,430
記念基金受取利息	166,241,876	71,246,516	237,488,392
特定資産受取利息	15,427	6,611	22,038
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
雑収益	30,000	0	30,000
雑収益	30,000	0	30,000
経常収益計	172,483,806	76,378,303	248,862,109
(2) 経常費用			
事業費	190,047,900	0	190,047,900
役員報酬	8,316,000	0	8,316,000
給与手当	39,784,397	0	39,784,397
法定福利費	6,714,348	0	6,714,348
退職給付費用	1,855,142	0	1,855,142
賃金	21,000	0	21,000
職員厚生費	327,228	0	327,228
会議費	2,172,480	0	2,172,480
旅費交通費	6,289,510	0	6,289,510
通信運搬費	2,927,418	0	2,927,418
消耗什器備品費	203,478	0	203,478
消耗品費	1,539,275	0	1,539,275
印刷製本費	2,137,416	0	2,137,416
光熱水料費	2,177,245	0	2,177,245
修繕費	96,012	0	96,012
役務費	8,316	0	8,316
委託費	22,222,789	0	22,222,789
賃借料	4,436,811	0	4,436,811
使用料	2,139,147	0	2,139,147
保険料	202,972	0	202,972
諸謝金	6,039,880	0	6,039,880
租税公課	13,300	0	13,300
支払負担金・会費	23,563,675	0	23,563,675
支払助成金	16,195,000	0	16,195,000
支払手数料	514,133	0	514,133
顕彰賞金	40,000,000	0	40,000,000
雑費	150,928	0	150,928

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
管理費	0	65,451,084	65,451,084
役員報酬	0	3,564,000	3,564,000
給与手当	0	31,042,358	31,042,358
法定福利費	0	5,914,752	5,914,752
退職給付費用	0	1,474,258	1,474,258
賃金	0	9,000	9,000
職員厚生費	0	260,044	260,044
会議費	0	931,062	931,062
旅費交通費	0	2,695,505	2,695,505
通信運搬費	0	1,254,607	1,254,607
消耗什器備品費	0	87,205	87,205
消耗品費	0	659,690	659,690
印刷製本費	0	916,035	916,035
光熱水料費	0	933,105	933,105
修繕費	0	41,148	41,148
役務費	0	3,564	3,564
委託費	0	9,524,053	9,524,053
賃借料	0	1,901,490	1,901,490
使用料	0	916,778	916,778
保険料	0	86,988	86,988
諸謝金	0	2,588,520	2,588,520
租税公課	0	5,700	5,700
支払負担金・会費	0	356,196	356,196
支払手数料	0	220,343	220,343
雑費	0	64,683	64,683
經常費用計	190,047,900	65,451,084	255,498,984
当期經常増減額	△17,564,094	10,927,219	△6,636,875
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
(2) 經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△17,564,094	10,927,219	△6,636,875
当期一般正味財産増減額	△17,564,094	10,927,219	△6,636,875
一般正味財産期首残高	62,003,597	122,067,265	184,070,862
一般正味財産期末残高	44,439,503	132,994,484	177,433,987
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
受取寄付金	4,000,000	0	4,000,000
基本財産運用益	2,196,503	5,125,176	7,321,679
基本財産受取利息	2,196,503	5,125,176	7,321,679

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
特定資産運用益	254,467,244	109,057,388	363,524,632
記念基金受取利息	167,788,414	71,909,318	239,697,732
記念基金投資有価証券償還益	86,678,830	37,148,070	123,826,900
特定資産評価損益等	28,043,810	12,018,775	40,062,585
記念基金投資有価証券評価損益等	28,043,810	12,018,775	40,062,585
一般正味財産への振替	△173,984,917	△77,034,494	△251,019,411
一般正味財産への振替	△173,984,917	△77,034,494	△251,019,411
当期指定正味財産増減額	114,722,640	49,166,845	163,889,485
指定正味財産期首残高	7,447,937,986	3,226,259,129	10,674,197,115
指定正味財産期末残高	7,562,660,626	3,275,425,974	10,838,086,600
Ⅲ 正味財産期末残高	7,607,100,129	3,408,420,458	11,015,520,587

4. 財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

①満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)によっている。

②満期保有目的の債券以外の有価証券

期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

その他の固定資産

什器備品…定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金

職員の退職手当の支給に備えるため、職員の退職手当支給規程に基づき、
期末要支給額を計上している。

賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2 表示方法の変更

『公益法人会計基準』の運用指針(平成20年4月 内閣府公益認定等委員会)の平成30年6月
の一部改正を当事業年度の期首から適用しており、「特定資産評価損」を「特定資産評価損益等」
に、「記念基金投資有価証券評価損」を「記念基金投資有価証券評価損益等」にそれぞれ表示
方法を変更している。

この結果、前事業年度の正味財産増減計算書の指定正味財産増減の部において、「特定資産
評価損」△30,504,142円は「特定資産評価損益等」に、「記念基金投資有価証券評価損」
△30,504,142円は「記念基金投資有価証券評価損益等」にそれぞれ組み替えている。

3 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	860,344,700	200,000,000	200,000,000	860,344,700
投資有価証券	29,655,300	0	0	29,655,300
小 計	890,000,000	200,000,000	200,000,000	890,000,000

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
記念基金	9,784,197,115	4,008,452,585	3,844,563,100	9,948,086,600
退職給付引当資産	41,100,400	3,329,400	0	44,429,800
国際園芸博覧会出展 事業積立資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
小 計	9,835,297,515	4,021,781,985	3,854,563,100	10,002,516,400
合 計	10,725,297,515	4,221,781,985	4,054,563,100	10,892,516,400

4 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	860,344,700	(860,344,700)	(0)	-
投資有価証券	29,655,300	(29,655,300)	(0)	-
小 計	890,000,000	(890,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
記念基金	9,948,086,600	(9,948,086,600)	(0)	(0)
退職給付引当資産	44,429,800	-	-	(44,429,800)
国際園芸博覧会出展 事業積立資産	10,000,000	-	(10,000,000)	(0)
小 計	10,002,516,400	(9,948,086,600)	(10,000,000)	(44,429,800)
合 計	10,892,516,400	(10,838,086,600)	(10,000,000)	(44,429,800)

5 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位:円)

科 目	品 名	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	花博会場模型	10,036,290	10,036,289	1
	コスモス国際賞顕彰品レプリカ	2,200,000	2,199,999	1
	ラフレッシュ(花)標本	4,506,293	4,506,292	1
	DVDレコーダー	165,000	164,999	1
	液晶テレビ	593,620	593,619	1
	ノートパソコン	193,200	193,199	1
	デジタルビデオカメラ	106,500	106,499	1
	プロジェクター	147,000	146,999	1
合 計		17,947,903	17,947,895	8

6 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時 価	評価損益
基本財産			
第328回利付国債	29,655,300	30,965,910	1,310,610
小 計	29,655,300	30,965,910	1,310,610
特定資産及びその他固定資産			
記念基金及び投資有価証券			
第3回日本電産社債	100,481,005	102,980,000	2,498,995
第20回みずほ銀行劣後債	101,379,364	104,190,000	2,810,636
第41回阪急阪神HD社債	102,362,291	105,630,000	3,267,709
小 計	304,222,660	312,800,000	8,577,340
合 計	333,877,960	343,765,910	9,887,950

7 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単価:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	7,321,679
記念基金受取利息	239,697,732
受取寄付金	4,000,000
合 計	251,019,411

8 その他公益法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項

金融商品の状況に関する事項

1. 金融商品に対する取組方針

当法人は、法人運営の財源の大部分を運用益によって賄うため、債券、デリバティブ取引を組み込んだ複合金融商品により資産運用する。

当法人が利用するデリバティブ取引は、デリバティブを組み込んだ複合金融商品(仕組債、仕組預金)のみであり、運用限度枠を設けている。なお、投機目的のデリバティブ取引は行わない方針である。

2. 金融商品の内容及びそのリスク

記念基金に含まれる投資有価証券は、債券、デリバティブ取引を組み込んだ債券(仕組債)が含まれており、発行体の信用リスク、市場リスク(金利の変動リスク、為替の変動リスク及び市場価格の変動リスク)にさらされている。なお、当該投資有価証券には、リスクが高いものとして、中途解約が著しく制約されていることにより、満期到来までに資金化することが困難な流動性に乏しい債券(仕組債)4,890百万円が含まれている。

3. 金融商品のリスクに係る管理体制

①資産運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の資産運用管理規程及び資産運用基準に基づき行う。

②信用リスクの管理

債券及び仕組債については、発行体の信用情報や時価の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

5. 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記3. に記載している。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	2,921,316	3,159,842	2,921,316	0	3,159,842
退職給付引当金	41,100,400	3,329,400	0	0	44,429,800

6. 財産目録

平成31年3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)	現金預金				
	現金	手元保管	運転資金として	132,170	
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	運転資金として	13,943,252	
		三菱UFJ銀行大阪公務部	運転資金として	9,468,065	
		三井住友銀行大阪公務部	運転資金として	3,658,125	
		みずほ銀行大阪支店	運転資金として	63,992,468	
		三菱UFJ信託銀行大阪法人営業部	運転資金として	12,261,289	
			現金預金合計	103,455,369	
	未収収益		公益目的事業及び管理目的の財源として使用する債券等の未収利息	76,588,360	
流動資産合計				180,043,729	
(固定資産)	基本財産	定期預金	りそな銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	344,700
				うち公益目的保有財産である	103,410
			うち管理目的の財源として使用する財産である	241,290	
		三菱UFJ信託銀行大阪法人営業部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	660,000,000	
			うち公益目的保有財産である	198,000,000	
			うち管理目的の財源として使用する財産である	462,000,000	
		大和ネクスト銀行ベンテン支店	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	200,000,000	
			うち公益目的保有財産である	60,000,000	
			うち管理目的の財源として使用する財産である	140,000,000	
		投資有価証券	第328回利付国債	満期保有目的で保有し、運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	29,655,300
	うち公益目的保有財産である			8,896,590	
			うち管理目的の財源として使用する財産である	20,758,710	
			基本財産合計	890,000,000	
	特定資産	記念基金			9,948,086,600
		投資有価証券	関西国際空港20年債他	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	9,439,042,600
				うち公益目的保有財産である。	6,607,329,820
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	2,831,712,780	
		第3回日本電産社債他	満期保有目的で保有し、運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	300,000,000	
			うち公益目的保有財産である。	210,000,000	
		うち管理目的の財源として使用する財産である。	90,000,000		
定期預金	大和ネクスト銀行ベンテン支店	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	100,000,000		
		うち公益目的保有財産である。	70,000,000		
	うち管理目的の財源として使用する財産である。	30,000,000			

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
その他固定 資産	普通預金	りそな銀行大阪公務部	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	100,000,000
			うち公益目的保有財産である。	70,000,000
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	30,000,000
	退職給付引当資産	みずほ銀行大阪支店	運用益を公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	9,044,000
			うち公益目的保有財産である。	6,330,800
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	2,713,200
	普通預金	りそな銀行大阪公務部	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	34,429,800
	信託受益権	三井住友銀行大阪公務部	退職給付引当金見合の引当資産として管理している。	10,000,000
	国際園芸博覧会出 展事業積立資産			10,000,000
	普通預金	三井住友銀行大阪公務部	公益目的保有財産であり、北京国際園芸博覧会出展事業の財源として管理している。	10,000,000
		特定資産合計	10,002,516,400	
	投資有価証券	第3回日本電産社債他 (オーバーパー部分)	公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	4,222,660
			うち公益目的保有財産である。	2,955,862
			うち管理目的の財源として使用する財産である。	1,266,798
	什器備品	花博会場模型等	公益目的事業及び管理目的の財源として使用している。	8
固定資産合計				10,896,739,068
資産合計				11,076,782,797
(流動負債)				
	未払金	平成30年度助成事業対象者に対する未払額等	公益目的事業及び管理目的の業務等未払い分	12,255,413
	預り金	役職員に対するもの	源泉徴収税等	1,417,155
	賞与引当金	職員に対するもの	公益目的事業及び管理目的の業務に従事する職員の賞与の引当金である。	3,159,842
流動負債合計				16,832,410
(固定負債)				
	退職給付引当金	職員に対するもの	職員8名に対する退職金の支払いに備えたもの	44,429,800
固定負債合計				44,429,800
負債合計				61,262,210
正味財産				11,015,520,587

平成 30 年度

IV. 監 査 報 告 書

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

監査報告書

令和元年5月23日

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

会長 今井 敬 様

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事

堀井 良 般



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

監事

北山 諒 一



私たち監事は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意志疎通を図り、情報の収集及び監査の環境整備に努めるとともに、理事会その他必要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以 上